

落雷による被害

令和6年4月に宮崎県内の高校で、部活の練習中に落雷により18人が病院に搬送されました。
日本では雷による死傷者が毎年発生しています。

落雷のリスクが高い場所

ひら
開けた場所や高い位置にある場所は、落雷のリスクが高いといわれます。具体的にはグラウンド、ゴルフ場、屋外プール、堤防、砂浜、山頂などがあげられます。

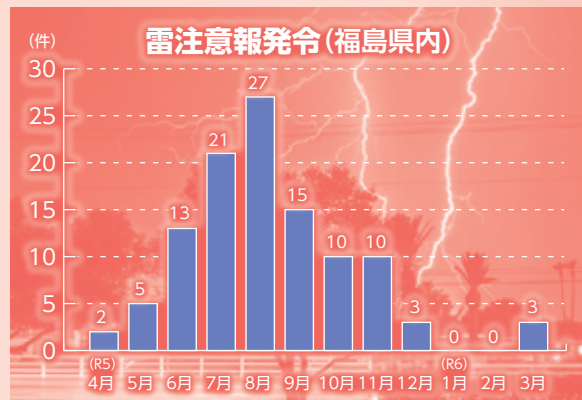
安全な避難方法

屋外にいる際に雷の音が聞こえたら、できるだけ速やかに建物や自動車などの安全な場所に避難しましょう。どうしても安全な場所がない場合は、電柱の真下は避け、両足をそろえて姿勢を低くしゃがみ、雷の爆音から鼓膜を守るために両耳をふさぎましょう。

屋内では電気製品やコンセントからは距離を取りましょう。

落雷の傾向

昨年度の福島地方気象台のデータを集計すると、太平洋側では夏場、日本海側では冬場に雷が多く発生しています。福島県内の雷注意報発令件数を集計すると、雷注意報は夏に集中して発表されています。



落雷から身を守る

雷の発生のメカニズムと危険性

雷は、雲の中で水滴や氷粒がぶつかり合い、異なる電荷(プラスとマイナス)が生まれ、この電荷が蓄積して雲と地面の間、あるいは雲の中で放電が起こる現象をいいます。



雷の電流は、50,000アンペアともいわれ、人間が心肺停止になる恐れがある0.1アンペアを大きく上回り、大変危険です。したがって、



落雷が発生してから避難するのではなく、雷の音や、雷注意報の発令など落雷の発生が予測できる段階で避難などの対策することが被害の回避につながります。

雷注意報は雷だけではない?

雷注意報は、落雷のほか、急な強い雨、竜巻等の突風、降ひょうといった積乱雲の発達に伴い発生する激しい気象現象による人や建物への被害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。

(気象庁ウェブサイトより)

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/warning_kind.html

積乱雲の発達は、気象状況によっては大雨や洪水による災害の発生につながる可能性も考えられます。大雨・洪水における避難情報も事前に確認しておきましょう。

大雨・洪水になったら警戒レベル4で全員避難!

避難レベル	避難情報等
5	緊急安全確保
4	避難指示
3	高齢者等避難
2	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)
1	早期注意情報(気象庁)

警戒レベル4 避難指示

危険な場所から全員避難

警戒レベル3 高齢者等避難

高齢者や障害のある方は避難

※高齢者等以外でも自主的に避難

警戒レベル5(緊急安全確保)

は何かの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況です。

自治体が災害等の情報を把握しきれない場合は発令されないことがあります。